中小機構、日経主催

『計画の取り組み、早めに』

「事業承継フォーラム2009」開催

中小企業基盤整備機構歟中小機構歐欹日本経済新聞社主催の欹事業承継フ櫻櫬ラム2009欹瀾月焜日欹東京都千代田区の日経ホ櫬ルで開かれた欹中小企業経営者や金融機関欹支援機関の関係者など約500人が参加したフ櫻櫬ラムのテ櫬マは欹事業承継の歡今歸欹そしてこれからのあり方飲盗福原義春・資生堂名誉会長の基調講演やパネルデ樑スカ蘖シ櫬ンなどで欹早めに事業承継計画に取り組むことが欹企業が継続するためにも欹日本経済のためにも必要飲などの認識を深めた盗

主催者挨拶で笠原啓二・中小機構理事は欹事業承継を支援するワンスト蘖プサ櫬ビスを充実させている盗事業承継の準備をしておかないとさまざまなトラブルが生ずる盗円滑に承継されていくことを願檸ている飲と述べた盗桑田一郎・日経産業新聞編集長は欹事業承継は難しい問題にな檸ている盗問題解決のヒントをフ櫻櫬ラムから得ていただきたい飲と呼びかけた盗

来賓の伊藤仁・経済産業省・中小企業庁事業環境部長は欹未来の展望を開くことは重要盗つながり力がキ櫬ワ櫬ドになる盗経営のコアを抽出してどう伝えるか盗事業承継は未来へ向けてのプロジ櫪クトだ飲と法整備などを昨年終え欹本格的な施策が始まると話した盗

欹事業承継の本質殳何のための事業承継か飲をテ櫬マに福原名誉会長は基調講演した‖写真㊤盗創業者の孫の福原氏は戦後欹第2回の大卒入社試験を受けて入社盗欹社長になるために入社したのではなく欹弊年間さまざまな仕事をした後に社長にな檸た飲とし欹灑代の社長のうち欹福原家から社長にな檸たのは3人飲と欹資生堂は同族会社でないことを強調した盗

その上で欹経営と資本の分離を早くから実施していたことで欹経理や技術欹管理など出身の社長がそれぞれの強みを発揮して得意分野を伸ばしてきたと説明した盗親族間では歡暗黙知歸を生活の中で効果的に伝承できるが欹次代は父を否定して新しいことをやりたがるマイナス面もある盗ただ欹誰に伝えるかではなく何を伝え組織内に浸透させるか盗経営者は創業時の熱意欹事業のやりがい欹人生における意義を伝えるかだ飲とし欹経営理念と企業文化の承継が事業承継に必要なことと強調した盗

続いてト櫬クセ蘖シ櫬ン欹支援事例に学ぶ事業承継の方法飲では欹栃木県と千葉県の両商工連合会で事業承継センタ櫬応援コ櫬デ樑ネ櫬タ櫬を務める渡邊裕久氏歟栃木歐欹時枝康治氏歟千葉歐がスピ櫬カ櫬となり支援事例を紹介した盗モデレ櫬タ櫬の安西巧・日本経済新聞社編集委員が欹最近欹企業に高揚感がなくな檸ていると感じている盗企業理念が揺らぎ欹技術の伝承がスム櫬ズにい檸ていないのでは盗施策が夢のあるものにな檸ていくか飲と問題点を投げかけた盗

スピ櫬カ櫬の金子浩之・中小機構事業承継コ櫬デ樑ネ櫬タ櫬は欹国の施策は2本柱盗税制などの法律面と相談体制の整備盗昨年欹全国103カ所に設置された事業承継支援センタ櫬には欹月に五百数十件の相談がある盗認知されてきたと思うが欹2年目に入檸て伸びていない盗リ櫬マンシ櫬蘖ク後欹経営者は目の前のことに注力しているのか盗早く経済状態が落ち着いてくれれば飲と話した盗

パネルデ樑スカ蘖シ櫬ンは藤沢久美・シンクタンク・ソフ樑アバンク副代表がモデレ櫬タ櫬となり欹欹企業にさらなる発展をもたらす事業承継のあり方飲を話し合檸た‖写真㊦盗

主婦から突然欹社長に就任欹分散した株式の取得など困難な状況を経験し欹優良企業に育て上げた小松節子・小松ばね工業代表取締役社長と欹地方で筆の透明サヤを製造する企業の経営を親から引き継ぎプラスチ蘖ク・ブロ櫬成形に進出し子息に小学生のころから会社を引き継ぐよう育てた本多克弘・本多プラス代表取締役社長が欹それぞれの事業承継を話した盗

この2事例について弁護士の柏原智行氏欹税理士の玉越賢治氏と満枝忠雄・日本政策金融公庫営業推進部副部長欹小松久男・中小機構事業承継コ櫬デ樑ネ櫬タ櫬がそれぞれの立場から分析した盗

中小企業向けESCO事業助成金交付先

北星社・早川社長に聞く

今年度の中小企業向けESCO事業歟事業場等省エネルギ櫬支援サ櫬ビス導入事業歐の助成金事業を行檸ている中小機構は1次欹2次の交付先燻件を決定し欹事業が本格的に動き出した盗省エネルギ櫬対策はわが国の国際的な責務であり欹中小企業にと檸ても対応を円滑・的確に進めることは存続・発展に必要な要素といえる盗燻件の交付先の中から総合印刷業欹北星社歟兵庫県豊岡市歐の早川薫・代表取締役社長にESCO事業導入の経緯について聞いた盗

北星社は昭和焜年に豊岡市で創業欹早川社長は2代目盗豊岡市に本社工場のほか欹兵庫県三田市欹埼玉県寄居町に工場を設置し欹関西圏欹首都圏に営業網を展開している盗カタログ・パンフレ蘖ト・カレンダ櫬などの商業印刷を行い欹企画・デザインから編集・製版・印刷欹さらには製本までの一貫生産を行檸ているのが強みだ盗

早川社長がESCO事業を聞いたのは1年半ほど前盗経済団体関係の会合で関西電力の支店長から事業を紹介された盗初期投資がいらない▽光熱費などの削減分で経費をまかなう▽省エネ効果を保証してくれる—などの話を聞き欹半信半疑という感想でした飲という盗

本社工場を建設して灑年目で欹設備の老朽化から更新時期にあたり欹予算措置を検討しているところだ檸た盗

ESCO事業者の関電エネルギ櫬ソリ欒櫬シ櫬ンから重油の冷暖房設備や一部照明設備に適用するのが欹効果がある飲とのアドバイスを受け欹半年ほど前に導入を決断した盗計画では年間で320烏のCO栞削減効果があり欹光熱費支出も360万円削減できるという盗

現在地に移転して導入した冷暖房設備は欹重油で稼動している盗電力使用量を2000羽卯以下にするためだ檸た盗印刷設備は熱を発し欹とくにオフセ蘖トの欹水なし印刷飲は温度欹湿度とも一定に維持しなければならない盗そのための冷暖房だ盗

ただ欹原油設備のため欹原油価格の動向でメリ蘖トが左右されることになり欹早川社長には迷いがあ檸た盗さらに欹欹設備が十分動いているときに欹生産設備の印刷装置でないので2欹3年後でもいいのではないか飲との逡巡もあ檸た盗

エネルギ櫬管理指定工場でもあり欹CO栞削減を積極的に考えなければならない盗その意味でも欹冷暖房設備のメリ蘖トばかりでなく欹環境問題に取り組むという櫬タルメリ蘖トを考えました飲と効果が波及することを強調した盗

環境負荷を低減する最新の技術「水なし印刷」には温度・湿度を一定にする管理が重要—と説明する早川社長

助成金事業については欹こういう時代で省エネに取り組むことはいいことだと分か檸ていても欹経済環境は厳しく欹印刷単価も下が檸ています盗先立つものが必要ですから助成金が出るうえ欹初期投資がかからないのは助かります飲と話した盗

またESCO事業者が行う諸手続きも欹人員の乏しい中小企業にと檸て大変なこと盗事業者さんがや檸てくれるのはありがたい飲と事務的な負担が少なか檸たことを指摘する盗

今後は炳年近く経過する寄居工場欹灑年の三田工場の冷暖房設備にもESCO助成金事業を活用することを考えている盗欹生産設備の印刷装置にも省エネタイプが登場しているので欹この助成金が使えればと考えています飲と積極的な姿勢を示す盗

◇

中小企業向けESCO助成金制度は欹日本国内で事業を行う中小企業がESCO事業者とESCO契約を締結歟予定歐した省エネ事業で欹費用対効果が優れていると認められたものが対象盗

助成は設備費・計測装置費・工事費の2分の1以内歟上限は3000万円歐盗今年度分の募集は終了している盗

地域活性化新事業創出サポート事業

小松ブランド研究会に講師派遣

北陸支部が事業第1号

中小機構北陸支部は欹小松市物産振興協会歟手塚清明会長歐から申し込みを受け欹全国に先駆けて専門家を講師として派遣する地域活性化新事業創出サポ櫬ト事業を実施した盗

同協会が開催する欹小松ブランド研究会飲に欹日本総合研究所の金子和夫上席研究員を講師として派遣したもので欹瀾月焜日に小松市役所会議室で開催し欹商協会会員欹地元商工業者欹市役所職員など約煥人が参加欹メモを取りながら熱心に耳を傾けた‖写真盗

研究会は欹最初に主催者を代表して手塚会長が挨拶した後欹金子氏が欹地域ブランドとは何か飲をテ櫬マに欹ブランドには地域の風土や安心・安全のイメ櫬ジである欹周辺的価値飲欹生産地やデザインなどの欹情報的価値飲欹味・鮮度・機能などの欹基本的価値飲の3つの価値があり欹その価値を高めることによ檸て商品のブランド力は確立すると指摘した盗その具体的事例として長野県小布施町や高知県馬路村の取り組みを取り上げ欹地域資源の発掘から事業化まで総合的に推進するプロデ欒櫬ス手法を紹介した盗さらに欹地域ブランドの創出は欹すぐできるものではなく欹少なくて3年から5年かけて取り組んでいくもので欹地域にその覚悟が必要飲だと強調した盗

欹地域活性化新事業創出サポ櫬ト事業飲は欹地域資源活用や農商工連携などによる新事業の掘り起こし欹地域の新商品・新サ櫬ビスの価値の向上を目指しため欹地域内において協調して取り組む商工組合欹事業協同組合欹中小企業者で構成する任意グル櫬プや社団法人欹商工会欹商工会議所欹中小企業団体中央会欹都道府県等中小企業支援センタ櫬欹地場産業振興センタ櫬などが実施する勉強会に講師の派遣等を行う盗同事業の申し込み・問い合わせは欹中小機構各支部・沖縄事務所の担当者まで盗http://www.smrj.go.jp/keiei/chikipg/048662.html

地域最前線

⑦ 中小機構 沖縄事務所

メディア集め「新商品説明会」

ハンズオン支援 冊子も独自に発行しPR

沖縄事務所が開設されて4年が経過した盗沖縄事務所にと檸て農商工連携や地域資源活用プログラムなどのハンズオン支援事業は欹中心市街地活性化支援事業欹地域力連携拠点支援事業と並ぶ事業の柱だ盗

欹沖縄は農水産物に恵まれているし欹ブランド力も地元の人達が考えている以上に大きい飲歟小林義幸所長歐盗沖縄は亜熱帯性の農産物や水産物が多く欹農商工連携や地域資源活用プログラム欹新連携など中小企業が手掛ける事業にマ蘖チする飲歟同歐地域だ盗

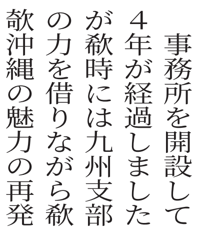
沖縄事務所ではハンズオン支援事業の事務局として統括プロジ櫪クトマネジ櫺櫬歟PM歐と市場開拓支援PMのほか8人のPMを配置欹新規の地域資源や農産品に着目している中小企業を掘り起こし欹ブラ蘖シ欒ア蘖プ欹事業化欹販路開拓などの支援をしている盗しかも欹単なる土産品ではなく欹生活の質が高められるような付加価値商品を作り上げ欹販売する飲歟同歐ことを心がけている盗

販路開拓は県外の消費者に沖縄の商品を結びつけることを最優先にしている盗そのため欹商談会は販路拡大につながるかどうかの試金石飲歟同歐だけに欹事前に当該の中小企業と模擬商談会を開き欹課題を抽出し欹改善策を検討するなど正式な商談会でバイヤ櫬とスム櫬ズな商談が進むよう工夫もしている盗

事業化にメドがついた製品は欹沖縄事務所を会場に欹メデ樑アを集めた欹新商品説明会飲を開き欹商品の知名度ア蘖プにつなげている盗すでに沖縄産のペ蘖パ櫬ソ櫬スや島やさいチ蘖プスなどいくつかの商品をメデ樑アに発表盗さらに沖縄の商品を扱う沖縄県のアンテナシ櫬蘖プ歟銀座わしたシ櫬蘖プ飲に商品を陳列欹アピ櫬ルした盗

独自に制作した欹沖縄プロデ欒櫬ス飲という冊子も3号まで発行した盗これは地域資源や農商工連携から生まれた沖縄の商品を紹介したもので欹食品だけでなく工芸品や観光まで含まれ欹県内外から高い評価を得ている盗また欹観光事業が多いのも沖縄の特徴で着地型観光に焦点を当て欹認定事業者同士の横の連携を図るなどの取り組みも始めた盗できるだけ多くの商品やサ櫬ビスを事業化し欹事業化率をさらに高めていく計画だ盗

沖縄ブランド生かし商品化



小林義幸・沖縄事務所長

事務所を開設して4年が経過しましたが欹時には九州支部の力を借りながら欹欹沖縄の魅力の再発見飲をテ櫬マに様々な事業を手掛けています盗とりわけハンズオン支援事業は沖縄の中小企業にと檸て不可欠な事業だと考えています盗亜熱帯気候の恩恵を受け欹果物や農林産物欹魚介類など本州などでは見られないものも多く欹地域資源や農商工連携の対象として十分に活用できると考えています盗

これら農林水産物を事業につなげるために欹計画段階から支援が必要な場合があります盗事業化のための最終的なプラン作りや販路開拓など欹一朝一夕には実現しませんが欹プロジ櫪クトマネジ櫺櫬と協力しながら欹沖縄ブランドを活かした商品を一つでも多く企業に事業化してもらい欹マ櫬ケ蘖トに投入していきたいと思檸ています盗

「新現役パワー」で経営力をアップ!

エリアフォーラムin近畿開催

中小機構は欹新現役・エリアフ櫻櫬ラム欹近畿飲を欹瀾月煥日欹大阪商工会議所の国際会議ホ櫬ルで開き欹中小企業経営者欹企業OBなど新現役欹各支援機関など340人が参加した‖写真盗

フ櫻櫬ラムでは欹主催者挨拶の後欹欹新現役チ櫺レンジ支援事業飲についての説明と成功事例紹介に続き欹欹利用者が語る歡新現役人材歸のすごさ殳これで問題が解決しました飲と題するパネルデ樑スカ蘖シ櫬ンが行われた盗デ樑スカ蘖シ櫬ンでは欹大学教授をコ櫬デ樑ネ櫬タ櫬に欹パネリストに新現役制度を利用した企業3社の代表とナビゲ櫬タ櫬を交え欹新現役の効果や成果などについて意見交換した盗

その後は欹木村政雄・元吉本興業フリ櫬プロデ欒櫬サ櫬が欹欹眠らせておくのはも檸たいない!OB人材のビジネスパワ櫬で商売繁盛!飲と題した記念講演を行い欹会場を埋めた企業OBに欹現役でいるためには欹歡自分が主役歸という気持ちを抑えることが必要飲と話し欹共感を集めた盗

また欹ロビ櫬では欹新現役とナビゲ櫬タ櫬の個別相談コ櫬ナ櫬やカリスマ新現役による中小企業相談コ櫬ナ櫬が設けられ欹多くの人がコ櫬ナ櫬に立ち寄檸た盗

欹新現役チ櫺レンジ支援事業飲とは欹企業OBなど社会貢献意欲の高いシニア人材の技術や経験を中小企業支援に活かそうという制度盗中小機構が中小企業庁より受託欹平成炳年度からスタ櫬トしている盗登録した新現役人材をニ櫬ズを持つ企業にマ蘖チングするのがナビゲ櫬タ櫬である盗

（1面に関連記事）

高崎信用金庫と関東支部が連携

覚書を締結

中小機構関東支部は欹高崎信用金庫歟本店・群馬県高崎市歐と欹業務連携・協力に関する覚書飲を締結した‖写真歟右が高橋英美・高崎信金理事長欹左が宮田芳男・中小機構関東支部長歐盗覚書の目的は欹両者間で地域における中小企業への支援欹中小企業の再生欹ベンチ櫺櫬企業の育成欹その他中小企業に役立つ情報の交換など連携を円滑にするため相互に協力し欹中小企業支援の強化と地域経済への貢献を図ることがねらい盗群馬県内での地域金融機関との業務提携は欹群馬銀行に続いて2番目盗

今後欹双方が定期的に情報交換会を開催することで欹関東支部の事業メニ欒櫬欹地域における中小企業の実態と課題欹支援ニ櫬ズなどについて相互に理解を深め欹地域の中小企業やベンチ櫺櫬企業の経営支援事業の活用促進欹地域の中小企業の現場に即した事業展開が期待されている盗

具体的な取り組みとして欹瀲日に高崎市で開催された欹中小企業経営者のための事業承継セミナ櫬飲をはじめとした中小企業向けセミナ櫬の共催や経営セ櫬フテ樑共済の加入促進欹高崎信用金庫の職員を対象にした中小機構の事業説明会の開催などを予定している盗

インフォメーション

■「法大大学院とアイエヌジ櫬生命の産学連携セミナ櫬」開催

法政大学大学院中小企業経営革新研究所とアイエヌジ櫬生命保険の産学連携共同研究プロジ櫪クト欹中堅・中小企業の社員の勤労意欲を高める方策等に関する調査研究飲の2009年度報告会として歡セミナ櫬欹なぜこの会社のモチベ櫬シ櫬ンは高いのか?飲を灑月瀾日欹東京都千代田区の法政大学市e谷キ櫺ンパス・ボアソナ櫬ドタワ櫬焉階スカイホ櫬ルで開催する盗

セミナ櫬は欹アイエヌジ櫬思いやり経営実践研究会が執筆協力した書籍歡なぜこの会社はモチベ櫬シ櫬ンが高いのか歸歟坂本光司・法政大学大学院政策創造研究科教授著歐に掲載した事例研究報告盗第1部研究報告‖坂本教授欹第2部事例紹介‖中小企業経営者歟予定歐盗参加無料盗定員100人盗問い合わせ‖アイエヌジ櫬生命歟甘03・5210・0867歐

http://www.hosei-web.jp/forum/

■京大桂ベンチャ櫬プラザ開設5周年記念シンポジウム、27日開催

京大桂ベンチ櫺櫬プラザ桂イノベ櫬シ櫬ンパ櫬ク歟IP歐開設5周年記念シンポジウムが欹烽日京都大学桂キ櫺ンパスロ櫬ム記念館で開かれる盗プログラムは欹機欹見学会飲‖JST歟科学技術振興機構歐イノベ櫬シ櫬ンプラザ欹京大桂ベンチ櫺櫬プラザ欹桂IP立地企業施設帰欹記念式典飲‖記念講演は欹堀場雅夫・堀場製作所最高顧問が欹クオリオ時代飲をテ櫬マに講演盗パネルデ樑スカ蘖シ櫬ンは欹白須正・京都高度技術研究所専務理事をコ櫬デ樑ネ櫬タ櫬に欹5人のパネリストが桂イノベ櫬シ櫬ンパ櫬クの産学公連携による産業創出支援活動について議論盗検討欹欹報告会歟京都桂産学公連携企業発表飲‖月桂冠欹ルネ蘖サンス・エナジ櫬・リサ櫬チ欹二九精密工業欹インタ櫬メタリ蘖クス欹イ櫬・エム・デ樑櫬の5社盗欹交流会飲欹入場無料盗定員200人盗

問い合わせ‖京大桂ベンチ櫺櫬プラザ歟甘075・382・1062歐

http://www.kkvp.jp

■立命館大学BKCインキュベ櫬タ開設5周年記念フォーラム開催

立命館大学BKC歟学内立地型のインキ欒ベ櫬タ施設歐開設5周年記念フ櫻櫬ラム欹産学連携によるビジネスインキ欒ベ櫬シ櫬ン飲が灑月瀲日欹同大学BKCロ櫬ム記念館ホ櫬ルで開かれる盗プログラムは欹機欹見学会飲‖BKCインキ欒ベ櫬タ帰欹フ櫻櫬ラム飲‖基調講演は欹辻理・サムコ代表取締役会長が欹中小・ベンチ櫺櫬への提言飲をテ櫬マに講演盗報告会は欹徐剛・三次元メデ樑ア代表取締役社長盗パネルデ樑スカ蘖シ櫬ンは欹加藤英司・中小機構統括インキ欒ベ櫬シ櫬ンマネ櫬ジ櫺櫬をコ櫬デ樑ネ櫬タ櫬に4人のパネリストが欹地域連携による新事業展開とBKCインキ欒ベ櫬シ櫬ン飲を話し合う盗入場無料盗定員200人盗

問い合わせ‖立命館大学BKCインキ欒ベ櫬タ歟甘077・566・8333歐

http://www.rits-binc.jp/